

復興支援と広域連携 東日本大震災から見てきたもの

関西学院大学 室崎 益輝

大震災の特質と支援の問題点

東日本大震災の特質・・・巨大、広域、複合

- ▶ 巨大な破壊力・・・被災地自治体が壊滅的な被害
救援を求めることも受援をはかることもできない
 - ▶ 広域的な被災・・・被災の範囲が極めて広域
支援の絶対的不足と支援の相対的空白
 - ▶ 複合的な連鎖・・・物心両面にわたる多様な支援障害
支援の時間的遅れの発生
- 広域支援に新たな課題が突きつけられた

広域災害支援の状況と課題

歴史上かつてない支援が展開

- ▶ 消防、警察、自衛隊、DMAT、専門的ボランティアなどの迅速かつ大量の支援

- ▶ 一般の行政職員の派遣は、阪神・淡路大震災の10倍

支援の混乱と空白が各所で発生

- ▶ 支援のニーズがあまりにも膨大かつ多様なため、いくら支援をつぎ込んでいても足りない
- ▶ 未経験ゆえの調整不足が、後方での逡巡と前線での混乱という形であらわれた
- ▶ 過去の経験にとらわれた「要請主義」などの支援慣行が「待機主義」を生んだ

▶ 3

広域災害支援の成果と教訓

新しい広域支援の枠組みが生まれた

- ▶ カンターパート方式の有効性

関西広域連合の「対口支援」

友好都市や姉妹都市などの関係性による支援

- ▶ 前線基地や情報基地の有効性

遠野まごころネットや東北自動車道情報センター

支援の幅やすそ野が大きく広がった

- ▶ 多様な支援者の参画による支援の広がり

専門的ボランティア組織や民間企業の活躍

▶ 4

広域災害支援のこれからの課題

超広域災害時の「支援・受援」計画の見直し

- ▶ 支援連携の前進基地・前線本部の整備
 - 国と被災自治体の連携
 - 行政と中間機関や民間機関との連携
- ▶ 自治体間の支援分担調整システムの整備
 - 地域割(対口支援)と分野別(専門派遣)
 - 対口支援を市町さらにはコミュニティレベルにまで
- ▶ 一般職員の「緊急援助隊」と「長期派遣隊」の整備
 - 迅速かつ持続的なシステムの構築
 - 災害時行政システムの標準化